

## 第2弾『大学のふるさと』調印決定!!

『大学のふるさと』制度（詳細別紙参照）は、人口の減少や少子高齢化の進行により地域活力が低下している過疎地域において、人材育成における実践的教育や社会的責任として地域貢献活動に対する関心が高い大学が、地域の方々とともに地域課題の解決に向けた協働活動を行い、継続的に交流する取組です。

この度、その第2弾として、本事業のモデルとなった**摂南大学**（大阪府寝屋川市）と**すさみ町**がこの主旨に賛同し、同様に**由良町**と**摂南大学**が、各々「大学のふるさと」として地域交流事業を実施することとなりました。

### ■大学のふるさと協定の調印

摂南大学とすさみ町及び同大学と由良町が知事立ち会いの下、調印式を実施します。

- 日時：平成26年10月8日（水）15：00～
- 場所：知事室
- 出席予定者：今井 光規（いまい みつのり）摂南大学学長  
岩田 勉（いわた つとむ）すさみ町長  
畑中 雅央（はたなか まさお）由良町長  
仁坂 吉伸（にさか よしのぶ）和歌山県知事

### ■摂南大学とすさみ町による取組

#### 地域間・世代間交流

「老若コミュニケーション」

- ・高齢者の見守り、困りごと対応(街道補修等)
- ・地域伝統行事の復活、イベント運営サポート
- ・寝屋川市、交野市の小中学生と地元小学生との交流

+

#### 防災・まちづくり

「安心安全なくらしと景観の保全」

- ・公的施設の高台移転に伴う企画コンペ
- ・住民向け防災啓発(防災教室)
- ・価値ある木造廃校舎の保存に向けた調査研究

### ■摂南大学と由良町による取組

#### 地域間・世代間交流

「学習コミュニケーション」

- ・健康づくりサポート（高齢者宅の訪問調査）
- ・町民向け講座の開催（健康・防災・サイエンス等）
- ・事前災害復興計画等各種調査研究フィールド活用

+

#### 薬草や特産品による産業振興

「地域産品の価値向上」

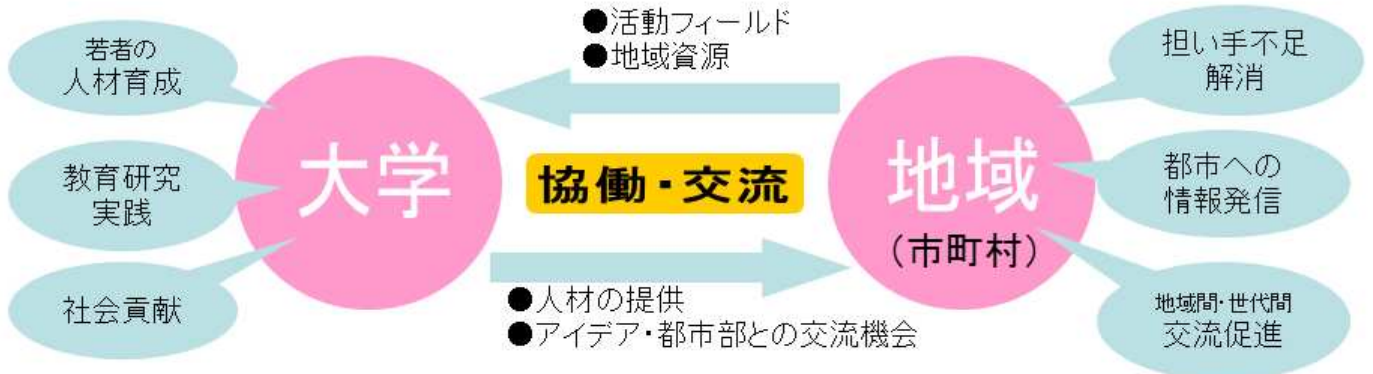
- ・薬草の産地化促進(栽培への指導助言)
- ・地域特産品の商品化に向けた研究、開発  
(柑橘類、魚類、発酵食品等の活用)

担当	県	すさみ町	由良町	摂南大学
	過疎対策課 深江・濱田	地域未来課 仲	総務政策課 岡崎	地域連携センター 小出
電話	073-441-2930（内線 2933）	0739-55-4801	0738-65-1801	072-829-0385

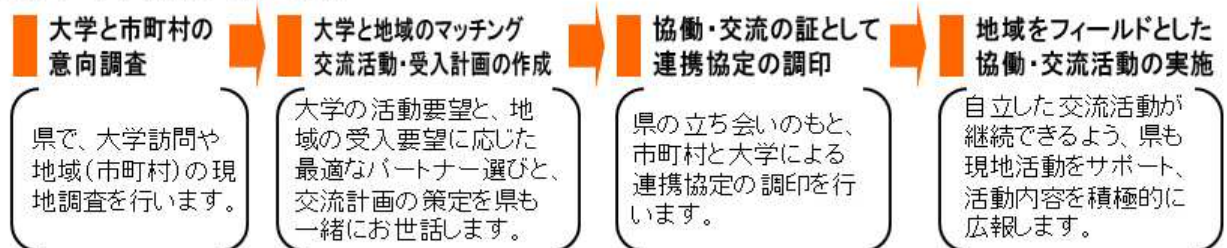
## 大学のふるさと 概要

### 都市部の大学と地域の連携をサポート、継続的な交流を推進

- <目的> ●地域においては、大学の知力や人的パワーを地域活性化に活かす  
 ●大学においては、学生の育成、研究・実践及び社会貢献の場  
 ●地域間、世代間交流につなげ、大学卒業後も将来にわたり続く関係を構築
- <しくみ> ●過疎化や高齢化に伴う様々な課題を抱える地域と、活動フィールドを求める都市部の大学のニーズをマッチング  
 ●大学と地域(市町村)の継続的な連携を総合的にサポート

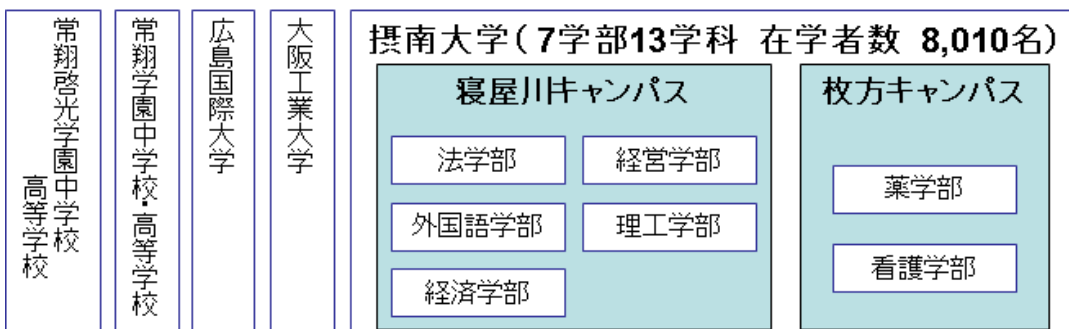


#### 【大学のふるさとの進め方】



## 摂南大学 概要

### 常翔学園グループ



〔歴史〕 1922年(大正11年) 関西工学専修学校 開校(学園の歴史のスタート)

1975年(昭和50年)4月 摂南大学 開設

学園の大阪工業高等専門学校(1962年開設・1979年廃止)の校地・校舎を引き継ぎ、寝屋川キャンパスにおいて工学部(現・理工学部)のみでスタート

その後、国際言語文化学部(現・外国語学部)、経営情報学部(現・経営学部)、薬学部、法学部、経済学部、看護学部を順次増設、現在、7学部13学科体制

2010年(平成22年) すさみ町と包括連携協定締結

2015年(平成27年) 大学創立40周年を迎える

○在学学生 8,010名、内和歌山県出身学生数約166名(H26年度入学者数38名)

○平成26年3月卒業生の県内就職者数：24名(本県出身者の地元企業就職率33.3%)